

「日本基督同胞教会史」研究会
「日本基督同胞教会年会記録」を読み解く 2

仲程 愛美

日本基督同胞教会年会記録

第14回（1914年）～第18回（1918年） *第16回、第17回は資料なし

◇第14回年会

日時：大正3年3月7日（土曜）～3月11日（水曜）

会場：渋谷基督同胞教会 及び 神田基督教青年会館

議長：コーサンド師 副議長：岡崎義孝師 書記：木倉信作師

*コーサンド師が病気のため途中から岡崎師が議長を務める。2日目以降コーサンド師は病欠。

開会時出席者：宣教師1名、牧師14名、信徒代表5名、番外議員2名

○日程

1日目 開会式、事務会、講演会、祈祷会

2日目 連合礼拝式、演説会

3日目 祈祷会、事務会、懇談会

4日目 祈祷会、事務会、親睦会、閉会式

5日目 美普福音同胞三派連合懇談会 会場：神田基督教青年会館

○全国協同伝道参加に満場一致で可決するが、指定負担額（225円）の支出方法については意見がまとまらず、教役者3名と信徒2名からなる委員会を設け協議する。翌日（二日目）委員会から、負担額は各教会が分担し3年間支出する事が提案され可決された。

○美普福音同胞三派協力伝道交渉委員選定の件上程にあたり、提案者新山師は次議案（合同問題に関する関し委員選定の件）提出者黒田師の希望により議権を譲ろうとするが、動議があり議事通りの進行となる。黒田師は「合同問題未定の今日協力伝道交渉委員選定の如きは反つて末の問題なれば、寧ろ今日は合同の可否を

決定するために合同交渉研究員を挙げて協力伝道関する如き一切を研究せしむるを可とす」と主張する。討議の結果、大多数が委員選定に賛成した。

続いて合同問題に関し委員選定が上程され、大内師が「合同研究交渉のことを協力伝道交渉委員に附託する事を動議」するが、採決の結果、原案のまま可決された。

- 名古屋市街岩倉町講義所開設の件、並に大都会付近に将来独立の見込みなき講義所は設置せざる事を定むる件が上程される。提案者関師の意図は新講義所の濫設を避けることにあり、岩倉町講義所開設をも否定する。反対意見もあったが、採決の結果可決された。
- 講演会では大野義信師による『児童と宗教』、海老名弾正師による『伝道実験談』という講演が行われた。「兩者共興味ある有益なる講演なりし事を喜ぶ。」
- 懇談会は日本橋教会信徒の中島石松氏宅にて開催される。そこで特別伝道（全国協同伝道を指す）について議論され「本年度特別伝道に要する集金額の幾部分割きて本年挙行する静岡教会の協同伝道を補助」することに一致した。
- 年会訪問者：麻布美普教会牧師 和田秀豊氏、日本日曜学校協会を代表して熊野雄七氏、日本基督教会同盟幹事 松野菊太郎氏、福音教会代表者 田山又之助氏。
- 美普福音同胞三派連合懇談会は神田基督教青年会館にて開催される。座長は美普教会の稲沼師。福音からは協同伝道について、美普からは神学校問題、同胞からは機関雑誌の共同経営について各々意見が述べられた。次いで決議文が朗読され、座長よりこれを当席上にて採決するかが問われ、多数に可決された。

「決議文原案

吾人は我國に現存する基督教各派の合同が正に天下の要求にして天父の聖旨たるを信ずるが故に特に親近の關係ある我等三派が益々此機運を促進して三派合同の實現を早からしむる事を期す。

大儀見元一郎 田山又之助 石黒猛次郎

◇第15回年会

日時：大正4年3月13日（土曜）～3月17日（水曜）

会場：静岡基督同胞教会

議長：ハワード監督 副議長：岡崎義孝師 書記：木倉信作師

開会時出席者：宣教師3名、教役者14名、信徒代表2名、番外議員2名

○日程

1日目 開会式、事務会、修養会

- 2日目 日曜学校実習、礼拝式（洗礼・按手礼式執行）、合同聖餐式：美普教会堂
- 3日目 早天祈祷会、事務会、午餐及び懇談会、合同問題研究会
- 4日目 早天祈祷会、事務会、聖別感謝会
- 5日目 合同懇談会

- 懇談会にて『同胞教会の使命に就て』新山師より発題があり「現在の日本同胞教会に於ては敢て教派主張の要を見ず事ろ既有的特色を益々發展保有する所に使命あり」と述べる。

次で『教会合同問題に就て』ハワード監督の談話があった。大要は以下の通り。「日本に於ける基督教會成立發展の歴史は小教派合同一致の利益ある事を示す、而て我が同胞教会の外國傳道會社は今日迄獨力を以て經營し來れる者にして今後愈々大なる機關を必要とするものあり又將來の教會は今よりも一層道德、政治、實業及び矯風事業等の方面に貢獻せざる可らず以て益々合同的活動の必要あり、而も上述の如き企圖に封しては單に一美普教會との合同を以て足れりとせず寧ろ美以或は日基の如き教派と合同するの有力なるに如かず、故に余は今直ちに美普と合同せんとするよりも矢張従前の如く兩派接近し相提携し傍ら他の大教派とも接觸して徐ろに合同の問題を研究し行かん事を望む」

- 合同問題研究会にてハワード監督、ヴァンダイク師、新山泰治師、大儀見元一郎、他有志の演説がなされ、教派合同に対して肯定的・積極的な「大同小異の意見」が述べられている。

▷ハワード師「(前略) 今日是世界何處に至るも不景氣の聲充ち歐州の天地は今や戰鬪酣にして人々互に相殺戮し其費す所の費亦一日無量一億満圓ならんとす、今もし此等の努力金錢を平和の事業に於ける有用なる工業、學術、教育等の方面に活用せしならば如何ばかり光榮ある結果を齎さんものを、思ふに如此は皆基督教の精神を最も善く社會に活用せざりし罪に歸するものと謂ざる可らず、(略) 吾人は此等の小教派が互に携帶協力して相立ち猶他の相似たる小教派をも加へ力を合せて如上の諸問題を解決し行かん事を望む、是れ即ち合同に對する第一歩たらん事を信ずと。」

▷ヴァンダイク師「一致は力なりとハワード監督の所説の如く、改善すべき多くの社會問題に對しては益々教派相互の一致協力を要す、此は亦會發展の爲めにも望まざるを得ざる所にて、兎に角合同は早晚成るものとして之に臨む方法としては兩者可成毎年同一場所に年會を開き亦ハワード監督所言の如く他の相似たる教派とも提携する事を望むと。」

- 総会と部規則について、大久保教会が自身の教会のために作成した規則を一般的な規則として適用しできるのか、またその規則が「同胞教會條令」に抵触しないか等を研究する委員を挙げる事が協議され、大多数賛成により可決された。議長は委員5名にコーサンド師、石黒師、大内師、東西両幹事(岡崎師・大野師)を指命した。
- 今秋に伝道開始二十年記念回及び記念伝道を京都もしくはその他の関西地方にて開催する事とし、予算は300円が計上された。
- 同胞教会歴史編集について雑誌「同胞」の一面に掲載する提案がなされ、一冊の本として印刷する案も出されたが、「同胞」の附録とすること、またその方法は新山師、岡崎師、大内師が協議することが可決された。
- 合同交渉研究委員石黒師の報告がなされ、明日開かれる懇談会において同盟の態度を「一層鮮明にし以て合同の機運を促進する事」への賛同を求めた。これに対して合同賛成派から時期や方法について多少の異論があり、反対派からは美普との単独合同より寧ろ他の大教派と合同すべきとの意見、将来合同するにしても今は自派教会の充実に努めるべきとの意見があった。議長は、合同賛否の態度を明白に決定するために挙手によって採決した。結果、賛成17名、反対3名(大野、笠原、大内の三氏)となった。
- 閉会後に、松澤、矢部両氏の歓迎会が催された。その会において、前日(4日目)に懸案となっていた「教役者扶助法改正案」について、一層精細なる研究を経て明年の年會に議案として提出すべき事が議決された。(養老委員会より提出された改正案が記載されている。)

第16回、第17回の資料は欠落

◇第18回年會

- *この年より体裁が整えられた記録になる。名称も「年會記録及び報告」に変わり、集合写真、役員・委員名簿、宣教師牧師の一覧、前年度の活動報告、會計報告、教会統計表、教役者共済規約等が加えられ、製本されている。
- 統計報告抜粋
宣教師牧師 22名(内1名女性)、教会数 19教会、講義所 7講義所、 教會員数 合計 1390名

収支決算：総収入高 14,498,120 総支出高 14,231,150

教役者会

日時：大正8年3月21日（木曜）

会場：相洲鎌倉角正

- 講演会 ジョエット博士「説教者の事業とその生涯」 講師：齋藤敏夫藤敏
「現代を救済すべき根本問題」 講師：ヘース氏
- 懇談会 主題「向ふ十ヶ年の日本同胞教會」 発題者 財政及び会堂建築について：大野氏、教会独立問題について：笠原氏、伝道について：新山氏、ニップ氏 教壇について：大内氏、日曜学校について：矢部氏など。

年会

日 時：大正8年3月22日（金曜）～3月25日（月曜）

会 場：原宿基督同胞教会

議 長：コーサンド総理 副議長：大野義信師 書記：岡崎義孝師

議員数：27名 開会時出席議員25名

○日程

- 1日目 開会式、年会組織会、総合祈祷会
- 2日目 祈祷会、事務会
- 3日目 総合礼拝、日曜学校総合大会、講演会
- 4日目 祈祷会、事務会

- コーサンド総理報告 「去春理事会の組織成れる後幹事及び余は相携へて年會所屬の各教會を訪問し、傳道の働をなすと共に教會員各自の理事会を通じて、年會に對する關係及び新に重を加へたる靈的並びに財的の自治自給の責任に就て特に力説する所ありたり。（中略）余はハッフ博士と交換せる書面を通じて外國傳道會社との間に親密なる接觸を保つと共に理事会の組織によりて年會の享有する一層大なる力により得らるべき吾人の利益並に吾人の眞精神を正確に彼等に通ぜんと試る所ありたるを光榮とす。外國傳道會社、宣教師會、日本年會の三重の關係は客中完全に一致して効果を擧げ得たり。種々の悲しむべき事件の發せるにかかわらず教會の事情はで見ざる好良の狀態にありと思はる。」

- 理事会報告の主だったものは以下の通り。

▷ミッション伝道地を年会に併合する。滋賀県の膳所、草津、守山、野洲及び千葉

県の市川講義所その他の伝道地を全て年会の伝道地とし、ミッション伝道地伝道師は全て年会所属とする。大津教会をニップ氏の宣教部内に入ることとする。

- ▷ミッションが大津市に幼稚園を設置することに賛成。但し経費は年会と関係ないとする。
- ▷京都教会は大正9年4月を期に独立するため、独立運動費として独立期まで毎年百円以内の特別補助を行うこととする。
- 笠原謙三幹事報告 「六年度中の日本同胞教會の状況は要報及統計に報告の如し。五年度と比較する六年度との教勢を比較するに會員總數に於て八十九名を増し、日曜日朝夕の集會者數に於て六十六名を増し、自給額に於て年額參百貳拾四圓を増し、集金總額に於て貳千六百九拾參圓七拾參錢四厘の増額を示したるは吾教會の發展を證するものと云はざるを得ず。(中略) 着々として衷なる信仰の生長しつつあるを信ずるものなり。吾人は更に進んで神國建設の爲めに吾同胞教會が其使命を全ふせん事を切に祈るものなり。」
- 各委員会報告がなされる。組織されていた委員は以下の通り。
任命委員、条例改訳委員、日曜学校委員、教会同盟委員、音楽委員、矯風委員、同胞編集委員、共済会、神学生教育委員、会計調査委員
- 四ヶ年計画拡張運動の件が上程され、以下の目標によって努力することが可決された。
會員數を2千名とする事。自給教会1、半自給教会1。年集金額を9千円に達する事。日曜学校數を35校となす事。教師數を150名となす事。生徒數を2500人となす事。
この四ヶ年計画は理事会の計画する十ヶ年計画に基づくため決議文が提出され、満場一致で可決された。
- 臨時特別手当支給の報告を受け、理事会の説明が求められ詳細な説明がなされた。「昨年来物價暴騰の爲めに各牧師に封し臨時手當を支給せざるを得ざる」として「理事會に於ては緊急事項と認め臨機の處置をなしたるものにてこは既に理事會の規約に定めある精神によりて遂行したるものなり」と。満場一致にて報告を承認する。
- 建議案として1) 毎年1回オッターバイン記念の日を定め各教会に於いて友愛の説教をなす事。2) 当日の献金を伝道資金として年会に提供すること。3) 実行方法その他の決定は理事会に一任する事。が提案され、新山師の説明後一同賛成可決となる。